

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 1 **理念・目的**

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	A
		(3) 学部(学科)・研究科(専攻)の育成する人間像は、明確ですか。	A
		(4) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性があるものになっていますか。	A
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧やホームページなど)との記述の齟齬	A
		(2) 教職員、学生、社会に対する刊行物、ホームページ等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知 ・社会に対しての公表	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0101・0102 「学生便覧」により、本学部の教育研究上の目的および大学の基本理念との関連性を在學生に示している[0101a] 「国際関係学部教育理念・使命ポスター」により、本学部の教育研究上の目的および大学の基本理念との関連性を在學生に示している[0101b] 「国際関係学部教育理念・使命クリアファイル」により、本学部の教育研究上の目的および大学の基本理念との関連性を在學生に示している[0101c] 「中部大学情報公表」HPにおいて、本学部の教育研究上の目的および大学の基本理念を学内外に示している[0101d]

「中部大学国際関係学部国際学科パンフレット」の1ページ目に、本学部の教育研究上の目的および大学の基本理念を掲載し、入学・受験希望者とその父母を中心とする学外に対して示している[0101e]	
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	特記事項なし
課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0102	「教育理念・使命」はクリアファイルやポスターで学生に明確に伝えているが[0101b] [0101c]、学部HPでは教育理念と教育方針の記述が混在してやや分かりにくいので改善の余地がある。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0102	2018年度「ピアレビュー報告書」をうけて、国際関係学部で内部質保証を議論・推進する役職者の「定例ミーティング」において、学部HPで国際関係学部の「教育理念」を「教育方針」と混同されないようなかたちで明確に打ち出す必要性について確認されたものの、現時点では学部HPの表記の修正はできていない。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0102	学部HPの表記をより明確なものに修正する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0101	a	『学生便覧』（2018年度/2019年度）p. 125	○
0101	b	国際関係学部教育理念・使命ポスター	○
0101	c	国際関係学部教育理念・使命クリアファイル	○
0101	d	中部大学国際関係学部HP	○
0101	e	中部大学国際関係学部国際学科パンフレット	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 2 内部質保証

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(4)外部評価（学内のピアレビュー受審を含む）を自己点検・評価に取り入れていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0203	2018 年度・2019 年度の国際関係学部教授会（それぞれ第 1 回）において、前年度を対象とする「国際関係学部教育活動評価点検委員会」構成の確認と、教育活動顕彰制度の学部ポイント算出のための投票を実施した[0203a・b]。
0203	2018 年度・2019 年度の国際関係学部教授会（それぞれ第 2 回）において、当該年度の「自己点検・評価シート」に基づき、国際関係学部の自己点検・評価の結果について報告・確認がなされた [0203c・d]。
0203	2019 年度の第 9 回・国際関係学部教授会において、2020 年度の国際関係学部の自己点検・評価委員会は主任会議のメンバーによって構成されることが確認された[0203e]。
0203	2018 年度の第 3 回・国際関係学部教授会において、「卒業論文ガイドライン」の策定のためのワーキンググループの発足が了承され[0203f]、2019 年度の第 2 回・国際関係学部教授会において、「卒業研究に関する規定」が承認された[0203g]。
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0203	教育活動顕彰制度の学部ポイント算出における教員による相互評価の投票制度 [0203a]。
項目 No.	
課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.	特記事項なし

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0203	ピアレビューで卒業論文の指摘を受け、卒業研究審査の客観性・厳格性の保証について、まず学科主任補佐を長とするワーキンググループを設置して、学部の卒業研究ガイドラインを明文化した[0203c・d]。さらに、初の試み

となる「卒論閲覧会」を実施して、複数の教員によるチェックを行った [学部 HP]。これにより、国際関係学部の卒論の特徴と今度の課題を認識することができ、教授会で報告して今後の課題について議論した。ピアレビューを学部の教育体制の改善に活かすことができた顕著な事例である。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
0203	成績評価の客観性・厳格性を確保するためのガイドラインの検討。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0203	a	2018年度 第1回 国際関係学部教授会議事録	○
0203	b	2019年度 第1回 国際関係学部教授会議事録	○
0203	c	2018年度 第2回 国際関係学部教授会議事録	○
0203	d	2019年度 第2回 国際関係学部教授会議事録	○
0203	e	2019年度 第9回 国際関係学部教授会議事録	○
0203	f	2018年度 第3回 国際関係学部教授会議事録	○
0203	g	2019年度 第2回 国際関係学部教授会議事録	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 4 教育課程・学習成果（1）

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0401	授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	(1) 課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針（DP）の適切な設定を行い、公表をしていますか。 ・当該学位にふさわしい学習成果の設定 ・学位授与の方針（DP）の設定	A
0402	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。	(1) 学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(2) 学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(3) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針を社会に対し、公表していますか。	A
		(4) 学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）は適切な関連性となっていますか。 ・「学位授与の方針（DP）」⇔「教育課程の編成・実施の方針（CP）」との整合	A
0403	教育課程の編成・実施の方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(1) 教育課程の編成・実施の方針（CP）と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2) 教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。（ナンバリング、カリキュラムマップ）	B
		(3) 単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。	A
		(4) 個々の授業科目の内容および方法は適していますか。	A
		(5) 授業科目の位置づけ（必修、選択等）は適切ですか。	A

0403	教育課程の編成・実施方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(6) 各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(7) 学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0401・0402 「学生便覧」により、学部学科のDP・CPを在学生に示している[0401a・0402a] 0401・0402 「中部大学情報公表」ウェブサイトにより、DP・CPを社会に対し公表している[0402a] 0403 「学生便覧」により、教育目標と卒業要件・教育課程の関連性を在学生に示している[0403a] 「科目ナンバリング表」により、すべての授業科目の分類・難易度等を在学生に示している[0403b] 「カリキュラムマップ」により、学科の教育理念と教育課程との関連性をオープンキャンパス参加者に示している[0403c] 「履修モデル」により、学科の人材育成目標と授業科目との関連性をオープンキャンパス参加者に示している[0403d]	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	特記事項なし
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0403	国際学科の「カリキュラムマップ」・「履修モデル」については、在学生に向けた表示・周知の方法および内容の詳細について、検討中である。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
シラバス第三者点検により、各学科のCPと個々の授業科目の内容および方法の適合性の確認を行った。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
--------	-----------------------

0403	国際学科の「カリキュラムマップ」・「履修モデル」について、在学生に対してより伝わりやすい形での作成・提示を行う。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0401	a	「学生便覧 2018年度」⑯・⑰・⑱	○
0402	a	「中部大学情報公表」HP 「3つのポリシー 国際関係学部国際学科」 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_international_studies/	○
0403	a	「学生便覧 2018年度」P.125-138	○
0403	b	「科目ナンバリング表 2018年度」p.16	○
0403	c	国際関係学部 国際学科 カリキュラムマップ	○
0403	d	国際関係学部 国際学科 履修モデル	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織 国際関係学部

基準 4 教育課程・学習成果（2）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(1) 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。	A
		(2) シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・授業内容とシラバスとの整合性の確保	A
		(3) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。	A
		(4) 授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。 【修士課程、博士課程】 ・研究指導計画(研究指導の内容および方法、年間スケジュール)を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。	A
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(1) シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	A
		(2) 既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・規程等に基づく単位認定のプロセス	A
		(3) 成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	B

0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(4) 卒業・修了要件を明確に定めていますか。	A
		(5) 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示されていますか。	A
		(6) 学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するためにどのような措置を施していますか。	A
		(7) 学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。	A
		(8) 適切な学位授与を行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0404 「ハイブリッド・プロジェクトA・B・C」においては、初回授業時に参加者の学問的関心を確認した上で、テーマ設定の段階から複数の教員と受講生全員でディスカッションを行い、学生の自主性を尊重しながら教員が必要に応じてサポートする授業を実施している[0404a]。	
0404 1年次生には、履修ガイダンスで履修登録の方法や要点をまとめた資料を配付し、指導している[0404b]。	
0405 学部執行部全員でシラバスを点検し、「達成目標」と「成績評価方法」に基づく成績評価の統一を行っている[0405a]。	
0405 オハイオ大学長期研修参加者の修得単位の認定については、学部教授会で審議・承認した内容に基づき、単位認定を行っている[0404b]。	
0405 卒業要件は「学生便覧」に明示し、入学段階から在學生に明示している[0405c]。	
0405 学位論文審査基準につき、学部で「卒業研究に関する規定」を取り決め、2019年度より適用している[0405d]。	
0405 第11回・第12回国際関係学部教授会における当該年度の卒業判定の審議・承認に基づき、学位授与を行った[0405e・0405f・0405g・0405h]	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0404	「ハイブリッド・プロジェクトA・B・C」では、複数の教員と受講生全員でディスカッションを行い、授業を実施している[0404a]。
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0405	卒業論文の審査基準は策定したが、中間発表会の運営方法については人数が多く、議論中である。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0405	卒業研究の審査基準に関するワーキンググループを4名の教員で構成し、議論を重ね、規定を策定した[0405d]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0405	卒業論文の中間発表会につき、その運営規定を策定する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0404	a	2018 年度秋学期開講「ハイブリッド・プロジェクト A」シラバス（抜粋）	○
0404	b	新入生用履修ガイダンス資料	△
0405	a	学部執行部で点検したシラバス原本	△
0405	b	オハイオ大学長期研修プログラム参加者の単位認定について（2016 年度以降入学生対象）	△
0405	c	「学生便覧 2018 年度」p. 129	○
0405	d	「卒業研究に関する規定」	○
0405	e	2018 年度第 11 回国際関係学部教授会議事録（抜粋）	○
0405	f	2018 年度第 12 回国際関係学部教授会議事録（抜粋）	○
0405	g	2019 年度第 11 回国際関係学部教授会議事録（抜粋）	○
0405	h	2019 年度第 12 回国際関係学部教授会議事録（抜粋）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 4 **教育課程・学習成果（3）**

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価をしていますか。	(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標	B
		(2) 成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有	A
		(3) 学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上に取り組んでいますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0406 1年次秋学期終了時に、必修科目「国際基礎演習」のクラス代表者によりプレゼン・コンペを実施し、学生の意欲向上と、基礎知識やアカデミックスキルなど、新入生の総合的な学習成果の検証を図った[0406a]。
0406 2年生の秋学期終了時に、必修科目「国際応用演習B」において、全員に「中間論文」を課し、調査・文章能力の検証を行った。またクラス代表者による発表会も行い、プレゼンテーション能力も検証した[0406b]。
0406 4年生の春学期終了時に多くのゼミクラスが参加する、学生主催の「卒業論文中間報告会」を実施した。また

この際に3年生も参加させることで、自身の卒業研究の目標とさせた[0406c] [0406d]。 0407 学位授与の方針に直接かかわる卒業論文の評価について、学部執行部を中心とした教員による「卒論閲覧会」を実施し、当該年度に提出されたすべての卒論を閲覧し、多ディシプリンの特徴を持つ本学部の卒論のあり方や評価の基準などについて議論をおこなった[0407a]。 0407 教育課程の適切性の評価検討のため、広く他大学の類似学部の教育手法について参考としており、役職者が視察を行っている[0407b]	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0406	「卒業論文中間報告会」への3年生の参加[0406c] [0406d]。
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.	特記事項なし
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0406	本学部では、1年次より毎学期必修のゼミ科目があることを利用し、学習成果を検証するという手法を採っている。そのために最も重要と考える、全学科での「卒論中間発表会」を着実に進めている[0406c] [0406d]。
0407	特に2019年度は、国際学科はじめての卒業生を出したこともあり、学位授与の方針（DP）に直接関係する卒業論文のあり方について教員間で議論が行われつつある。「卒論閲覧会」は、一律の基準や評価を厳密に定めるというよりは、多ディシプリンの本学部にふさわしい卒論やその評価を探る試みである。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0407	学習成果測定結果に基づく教育課程の適切性についての点検

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0406	a	中部大学国際関係学部ホームページ「国際基礎演習プレゼン・コンペ」 https://www3.chubu.ac.jp/international/news/25917/	○
0406	b	中部大学国際関係学部ホームページ「中間論文発表会を終えて」 https://www3.chubu.ac.jp/international/news/23338/	○
0406	c	中部大学国際関係学部ホームページ「卒業論文中間報告会を終えて」 https://www3.chubu.ac.jp/international/news/24521/	○
0406	d	2019年度卒業論文中間報告会ポスター	○
0407	a	中部大学国際関係学部ホームページ「卒論閲覧会」 https://www3.chubu.ac.jp/international/news/25927/	○
0407	b	近畿大学国際学部視察報告	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準5 学生の受け入れ

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0501	入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。	(1) 学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。	A
		(2) 明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。 ・入試要項とホームページ等の媒体間の記述の統一	A
		(3) 社会に対し公表していますか。	A
		(4) 下記内容を踏まえた入学者受入れの方針(AP) の設定となっていますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
0502	入学者受入れの方針(AP) に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	(1) 入学者受入れの方針(AP) と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合	A
		(2) 入学者受入れの方針(AP) に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程の編成・実施の方針(CP) と学生募集方法、入学者選抜方法の連関 ・入学者選抜において透明性を確保するための措置	A
		(3) 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされていますか。	A
		(4) 公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(5) 入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A

0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	(1) 入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・ 入学定員に対する入学者数比率 ・ 編入学定員に対する編入学生数比率 ・ 収容定員に対する在籍学生数比率 ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程、博士課程】 ・ 収容定員に対する在籍学生数比率	A
0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っていますか。	(1) 学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・ 学部内委員会等において根拠資料に基づいた定期的な検証	A
		(2) 自己点検・評価結果に基づいた改善・向上を行っていますか。 ・ 年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0501	「中部大学情報公表」ウェブサイトにより、APを社会に対し公表している[0501a]。
0502	「2018年度、2019年度AOポートフォリオ入試入学試験要項」により、受験生にAPを公表した[0502a]。また学部独自のAOポートフォリオガイダンス資料を受験希望者に配布した[0502b]。
0504	「AOポートフォリオ入試」の選抜方法についての検討を行い、入試要項に明記した[0504a]。入学した学生については、個人情報の取扱いに注意しつつ出身校・入試種別等の分析を行い、適切性に関する検証を行っている[0504b]。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	特記事項なし
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0502	AOポートフォリオ入試以外の入試種別の選抜等の定期的検討[0502a]。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0504	「AOポートフォリオ入試」については、その性格上求める人材像の設定が行われ、適切に行われていると考えるが[0502a]、それ以外の入試種別についても学部においてさらなる検討が必要と考える。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0504	学生募集および入学者選抜方法の全般における検証と、それに基づく改善と向上。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0501	a	「中部大学情報公表」ウェブサイト「3つのポリシー 国際関係学部国際学科」	○
0502	a	AOポートフォリオ入学試験要項	○
0502	b	「AOポートフォリオ入試ガイダンス」	△
0504	a	2018年度、2019年度受験者情報一覧	△
0504	b	第2回国際関係学部学科会議資料「2018年度国際学科新入生の状況 整理と分析」	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準6 教員・教員組織

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1) 大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	A
		(2) 教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師または助教)の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(3) 学士課程における教養教育の運営体制を整備していますか。	A
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1) 教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	A
		(2) 規程等に従った適切な教員人事(募集、採用、昇任等)を実施していますか。	A
0604	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1) FD活動を組織的に実施していますか。	A
		(2) 点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0602 当該期間に新任の女性教員2名を迎え、男女比、年齢比のバランスが以前よりは改善された[0602a]。	
0603 「国際関係学部昇格判定基準」を定めており[0603a]、これに準拠し教授への昇格2件、准教授への昇格3件を行った。	
0604 学部教員と学生を対象とし、研究・教育両面について発表が行われる「国際関係学部セミナー」（2018年度）、「国際関係学部研究会」（2019年度）を開催し、教員の知見を深めた[0604a] [0604b]。	
0605 学部教員の全学および学部内の各種委員会の担当状況をまとめ、主任会議、教授会において確認することで、構成員の適性と負担の公平性に基づいた委員会運営を行っている[0605a]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0604	教員・学生が参加可能な学部研究会の開催[0604a]。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0605	教員組織の適切性に関する検証方法の不足。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0602 前回の評価の際の「留意点」にもあったように、人事検討の自由度が低くても定常的検討と記録が必要との意見を受け、主任会議レベルではかなり議論を行っているが、記録作成には至っていない。今後主任会議の議事録等に残してゆきたい。	
0604 上記研究会では、特に新任教員には他教員の発表を聞くことで、多ディシプリンである本学部の学問の「幅」を理解する契機となると思われる。また2019年度には教育関連（留学プログラム等）の発表内容もあり、直接的なFD活動となっていると思われる。	
0605 上記0602とも共通するが、教員組織の適切性に関する検証方法についての改善を進めたい。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0602	教員配置の定常的検討と記録作成。
0605	教員組織の適切性に関する検証方法の改善。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0602	a	国際関係学部所属教員（生年月日含む）	△
0603	a	国際関係学部 昇格判定基準（2012年7月18日 国際関係学部教授会承認）	○
0604	a	「国際関係学部セミナー」（2018年度）学部HP記事	○
0604	b	「国際関係学部研究会」（2019年度）学部HP記事	○
0605	a	2019年度国際関係学部各種委員会名簿（案・途中経過）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 7	学生支援
------	------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2) 学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応 	A
		(4) 学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み ・生活支援面において、方針の目的（安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等）の支援 	A
		(5) 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施 	A
		(6) インターンシップは十分に実施していますか。	A
		(8) 学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していますか。 キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0702 成績不振の学生の状況把握と指導については、学修ポートフォリオや学科内で収集した学生一人ひとりについての就学状況情報を活用し、学期中を通して演習科目担当者が単位取得や出席状況に問題が見られる学生に対して適宜指導している。退学希望者についても、同様に対応し、状況把握と対応をおこなっている[0702a]。	
0702 ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動については、3年生演習科目の所属を決定する際に、「国際専門演習講義要綱」の中（p. 29）で、トラブルやハラスメント発生時の対応について明確に規定している[0702b]。	
0702 学生のキャリア支援を行うための体制については、毎月、教授会で学部キャリア開発担当教員から情報提供がなされている。また、進路選択に関わる支援やガイダンスについては、年に数回、学部長補佐を主としてイベントやガイダンスが企画され、複数の教員の協力によって実施されており、学部ウェブページでも情報を発信している[0702c] [0702d]。	
0702 インターンシップについては、適宜、キャリア支援課とも連携し、学部内ではインターンシップ推進委員の教員を中心に、教授会での情報共有がなされている[0702e]。	
0702 学生の要望に対応した学生支援について、ゼミ単位の課外見学・実習や、文化活動を実施し、学部ウェブページでも情報を発信している[0702f] [0702g] [0702h]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0702	学科内で収集した学生一人ひとりについての就学状況情報を活用している[0702a]。
項目 No. 0702	トラブルやハラスメント発生時の対応について明確に規定している[0702b]。
項目 No. 0702	学生の要望に対応した学生支援について、ゼミ単位の課外見学・実習や、文化活動を実施している[0702f] [0702g] [0702h]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.	特記事項なし
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0702	前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）では、「特になし」であった。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0702	2017年度には開催していた、本学部卒業生を招いたキャリア関連懇談会を開催するなど、2018-2019年度に開催できなかった学生支援活動の開催を再度活性化させ、学部ウェブサイトでの情報発信に努める。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0702	a	18 国際基礎演習の引き継ぎ	△
0702	b	国際専門演習講義要綱 p. 29	○
0702	c	19 学部キャリアセミナー「インバウンド観光の「お仕事」	○
0702	d	大澤ゼミ主催「就職座談会」 国際関係学部 中部大学	○
0702	e	19 インターンシップA出欠・レポート提出状況表	△
0702	f	愛知県警察本部の見学に行ってきました 国際関係学部 中部大学	○

0702	g	名古屋地方裁判所の法廷見学に行ってきた 国際関係学部 中部大学	○
0702	h	19 学部研究発表展「第1回日中韓ポップカルチャーサミット」	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 8 教育研究等環境

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	A
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	A
		(2)自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0802 主任会議、教授会などにおいて本学部の教育研究等環境について議論し[0802a]、「2019年度教育・研究に係る事業計画と予算の提案」[0802b]に反映させ、20号館12階の大会議室の環境整備を行った。	
0806 他学科・他大学の事例について視察を行い、3階の資料室を学生の学習のための「語学ラボ」として使用することとした[0806a] [0806b]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	特記事項なし
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0802	「語学ラボ」の学生への周知と利用強化。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0802・0806 前回のピアレビューによる「留意点」として、「施設・設備に対する意識がない」点について指摘されたため、教授会においてこの点を議論し、教授会、国内外のゲストを迎えての小規模の講演会や、学部セミナー、研究会に利用している12階会議室の整備を行うこととし、事業計画として提案した[0802a] [0802b]。同様にして英語（外国語）の学習施設である英語ラボの整備について、他学科や他大学の事例を参考に、「語学ラボ」として実施することとなった[0806a] [0806b]。特に語学ラボは全学的な外国語教育施設の整備とも合わせ、本学部学生の語学学習環境の整備を行っていきたい。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0806	語学教育環境の整備推進

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0802	a	2019年度 第3回 国際関係学部教授会議事録	○
0802	b	2019年度教育・研究に係る事業計画と予算の提案	○
0806	a	2018年度 第7回 国際関係学部主任会議議事録	○
0806	b	2018年度 第11回 国際関係学部主任会議議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～ 2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 9 社会連携・社会貢献

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2) 社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
		(3) 地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0902 中部大学教員免許状更新講習にて、2018 年度・2019 年度ともに、本学部教員が講演を行った [0902a] [0902b]。 0902 シニア大学（中部大学アクティブアゲインカレッジ）に 2018 年度は、春学期に 1 名、秋学期に 4 名の本学部教員が講師として参加した。2019 年度は、春学期に 3 名、秋学期に 3 名の本学部教員が講師として参加した [0902c] [0902d] [0902e]。 0902 2018 年度は地域連携講座（2 講座計 5 回）に、本学部教員計 2 名が講師として参加した。2019 年度は、地域連携講座（2 講座・計 6 回）及びジュニアセミナー地域連携講座（1 講座・計 1 回）に、本学部教員計 3 名が講師として参加した [0902f] [0902g] [0902h]。 0902 ホームページに掲示した「教育理念・使命」において、「国際社会や地域社会で活躍する「行動できる、心豊かな人間」を育成」と明示し、地域社会への貢献を謳っている [0902i]。	
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	特記事項なし
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0902	方向性・戦略性が必ずしも明確ではない。
項目 No. 0902	社会連携・社会貢献活動は、概ね受動的といわざるをえない。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0902 2018年度ピアレビュー報告書では、「実際には多くの先生方が様々な社会貢献をされているはずであるので、それらを学部として適切に把握し、戦略的に活用されることを期待したい」という指摘を受けた。上記のように、地域連携講座への参加や、恵那市へのマスク寄贈など本学部教員は積極的に社会貢献を展開している。このような例も参考に、今後より戦略的に推進したい[0902f][0902g][0902h][0902j]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
0902	ホームページへの情報集約・社会に向けての発信など、さまざまなプランがあるが、現在その効果を慎重に見定め、効果的に発信できる方法について、他大学での取り組みなどを参考にして、いくつかのプランを作成し、意見交換を行っていききたい [0902d]。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0902	a	平成30年度中部大学教員免許状更新講習 表紙、目次、pp. 28-29	○
0902	b	令和元年度中部大学教員免許状更新講習 表紙、目次、pp. 22-23	○
0902	c	2018年 (CAAC2017年度) CAAC 授業担当者一覧表	○
0902	d	2019年 (CAAC2018年度) CAAC 授業担当者一覧表	○
0902	e	2020年 (CAAC2019年度) CAAC 授業担当者一覧表	○
0902	f	地域連携講座2018パンフレット	○
0902	g	地域連携講座2019パンフレット	○
0902	h	地域連携ジュニアセミナー2019パンフレット	○
0902	i	「教育理念・使命」中部大学国際関係学部ホームページ	○
0902	j	朝日新聞 愛知14版 2020年4月23日	○

提出区分 … ○:本シートと一緒に提出する資料 △:現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 教授会のみならず、学部執行部による主任会議については、以前より議事録を作成しており、学部内で開催された委員会での検討・決定事項については、学部教授会での報告がなされており、教授会議事録に記載される[1120a]。	
1120 学部内小委員会のうち、開催頻度の高い英語（外国語）教育委員会については、議事録作成を実施するようになった[1120 b]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	特記事項なし
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	一部の学部内委員会については、学部外にまで公開できる議事録が作成されていない。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120 前回のピアレビューの留意点の指摘を受けて、学部内委員会のうち、英語（外国語）教育委員会については、議事録の作成を始めるとともに、主任会議の議事録を詳細に作成するようになった。しかしながら、一部の学部内委員会については、議事録が作成されていない。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	学部内委員会の活動について、議事録等で検証可能にする。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2019年度 第3回 国際関係学部教授会議事録	○
1120	b	英語（外国語）教育委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管